

令和5年度  
議会運営委員会  
行政調査報告書

## 議会運営委員会 行政調査報告書

### 1. 日程及び調査先

日 程：令和5年11月21日（火）～22日（水）

調査先：新潟県燕市、新潟県見附市

### 2. 調査事項

①11月21日（火）14:00～15:30 新潟県燕市議会

タブレットの有効活用について

②11月22日（水）10:00～11:30 新潟県見附市議会

タブレットの有効活用について

### 3. 参加者

委員長 星川 薫                      副委員長 鈴木由美子

委員 伊藤 浩                      委員 和田 哲                      委員 畑中和恵

### 4. 報告

#### 《委員長 星 川 薫》

##### （1）新潟県燕市

タブレットの有効活用について

燕市の議会システムは本市と同様、SideBooks を使用している。グループウェアはLoGoチャット（有料）、スケジュール管理はGoogle カレンダー（無料）を採用している。本市は、Office365（有料）を採用しているが、燕市同様の連絡通知、チャット機能、スケジュール管理がなされている。

本市からの質問について回答をいただいた内容を下記に示す。

##### ①本議会、常任委員会以外での活用事例

- ・会期以外は、議員各自における議会活動に利用
- ・システムの本棚上では、数年分の議案をはじめ、説明資料、市の各種計画、防災関連など、膨大な数、ページが格納
- ・支援者の方々への報告会などでは、事務所所有のプロジェクターを貸与し、タブレットを用いて画面を映写しながら閲覧、説明
- ・議会広報等特別委員会では、議会広報の原稿をタブレットで確認しながら進めている。また、編集等を会議録センターに委託しており、当日は同席いただいて、原稿を編集しながら会議を開催

##### ②フォルダ構成、階層、掲載などについて

- ・各会議ごとにフォルダを作成し、各年、各回に分けて資料を格納
- ・青色のフォルダは、当局からの各種資料の共有のためのフォルダ
- ・黄色のフォルダは、議員各自で使用するためのフォルダ
- ・会議開催ごとにフォルダを赤色に変更し、使用するフォルダをわかりやすくする
- ・議会事務局のアカウントを会議録センターに付与し、各種会議録データ納品分をサイドボックスにも格納

### ③連絡用チャット、スケジュールの共有について

- ・連絡用チャットは、LoGo チャット。災害時の安否確認にも活用
- ・スケジュール管理は、Google カレンダー。議会行事予定の共有、議長、副議長の公務の共有、案内状の添付によるペーパーレス化

### ④予算書、決算書等の取扱いについて

- ・すべて PDF にて格納。紙媒体は一枚数十円で提供

以上の回答をいただいたが、参考にすべきは①②の会議録センターと契約することにより、会議録の即時文書化、④の冊子を配布せず、すべて電子化（PDF）にすることによる、完全ペーパーレス化ではなかろうか。また、報告会や議会編集にも有効活用されており、本市も同様の部分もあるが更なる活用が求められる。議員の年齢も老若男女いるのも理解しているが、タブレットを導入した以上、コスト削減と有効活用は必衰である。妥協を許せば物事は前に進まない。議会及び議会事務局全体で研鑽を図り、タブレットの有効活用を進めてまいりたい。

最後に多様な中、尾花沢市議会議会運営委員会の視察を受けていただいた燕市議会事務局様に貴重な内容をご教授いただき誠に感謝申し上げます。

## （２）新潟県見附市

タブレットの有効活用について

見附市の議会システムは本市と同様、SideBooks を使用している。グループウェアはWowTalk（有料）一人3端末までインストール可、スケジュール管理はGoogle カレンダー（無料）を採用している。

本市からの質問について回答をいただいた内容を下記に示す。

### ①本議会、常任委員会以外での活用事例

- ・議員協議会、議員研修会、議会のあらゆる会議で使用
- ・行政視察に出掛ける際もタブレット持参
- ・議会活動以外の議員活動にも使用可能としているので、議員が地元住民や支援者等と会合する際に、市の事業を説明するために使用
- ・Zoom を使って会派の議員同士でオンライン会議をしたり、オンライン研修を受講するのに使用
- ・ノートパソコン代わりに使用する議員も（政務活動費報告書類の作成、一般質問通

告書の作成等)

- ・「月間定額通信料の範囲で、操作に慣れるためにも、自由にタブレットを使ってください」というスタンスで臨んでいる

## ②フォルダ構成、階層、掲載などについて

- ・東京インタープレイ社が提案してきた初期設定をほぼそのまま利用
- ・本会議システムとその他会議システムの2システム
- ・最初は常任委員会や議運の所属ごとにアクセス権限を設定していたが、全議員で資料を共有するメリットの方が大きいので、全議員が閲覧可能に設定
- ・資料の準備ができたことをチャットにより、議員各位に配信。原則、会議前日の午後5時までにはアップ

## ③連絡用チャット、スケジュールの共有について

- ・連絡用チャットには、キングソフト社の「WowTalk」を使用
- ・NTTドコモの通信プランのオプションの位置付け
- ・スケジュールの共有には、Google社の「Googleカレンダー」を使用

## ④予算書、決算書等の取扱いについて

- ・会議資料はすべてデータにより配信し、紙での配布は行わないことを原則としているが、予算書、決算書、決算審査意見書、当初予算の概要、決算事業成果の説明の5点だけは、当面の間、データと冊子の双方を配布することを申し合わせている

以上の回答をいただいたが、①に関しては、本市も同様のスタンスを取っている。②もほぼ同様であるが、Dmチラシや全国市議会旬報など、様々な情報も掲載している。③に関しては使用するアプリは別であるが、同等の事はできているので問題はない。がアンケートの投票機能が有るのは日程調整に大いに役立てており評価できる。④は現状の本市と同様である。また、本市との違いは、執行部サイドがタブレットを導入していないところである。当局側はあくまでも資料を作成する側で割り切っているとのことであった。

最後にこの行政視察で、これからの本市議会におけるタブレットの活用は、議会活動だけでなく議員活動にも活用できるように全議員がスキルアップを図ることが重要であろう。そして、お忙しい中、見附市議会事務局並びに議長、議会運営委員長様には、貴重なお時間をいただき感謝申し上げます。

## 《副委員長 鈴木 由美子》

### (1) 新潟県燕市 平成30年9月導入

本会議、常任委員会以外でのタブレット活用事例として、支援者の方々への報告会などで、事務局所有のプロジェクターを貸し出し、タブレットを用いて画面を映写しながら閲覧、説明を行っていることについて、議員の他市民への有効活用に繋がるので、本市としても見習うべきと考える。

連絡用に有料のLogoチャットを導入し、各タブレットの他スマートフォンでも見ることができるようになっている。「LINE」のように誰が読んだか読まないかが解るようにすることで、災害時の安否確認にも活用できるようにとのことだが、便利な点もあるが、既読になったからと言って受信する側が確実に情報を理解しているとは限らない時もあると思う。

予算書、決算書も昨年からサイドボックスに入れ、冊子として配布していないとのことであるが、2画面で資料を見る事が出来ないのも、見比べる際に不便と感じた。また今後オンライン市議会の可能性を探っていくとの話もあったが、議会開催の意義や議員の倫理など多くの議論が必要となると思われるので、慎重に考えていくべきと考える。

### (2) 新潟県見附市 令和3年11月導入

見附市は燕市を導入モデルとして学んでいるが、iPadの貸与が議員のみで執行部には取り入られていない。そのため、従来の紙の書類も用意する必要があるので事務の負担軽減には繋がっていないとのこと。また、使用する側の議員によってはiPadの資料にメモをする際何回かの工程が発生するため、資料をプリントアウトして準備していることから、総合的な意味でのペーパーレスにはなっていない上、議員個人の負担が増えていると感じる。

有料ビジネスチャットアプリ「wow talk」を選んだ理由として、国内にサーバーがあることを挙げていた。今問題になっているのは情報漏えい対策に苦慮している事があるので、慎重に取り組む必要があると考える。

議会事務局では、タブレット内の議員の書類に「しおり」を用意したり、DMチラシを毎月更新掲載、全国市議会旬報の掲載など議員活動に役に立ちそうな情報の提供をしていることなどきめ細やか配慮に感銘を受けた。

## 《委員 伊藤 浩》

### (1) 新潟県燕市議会

テーマ タブレット端末の活用

- ・平成30年度よりタブレットを導入しており、色々な処に応用されていた。議員ごとの温度差はまだあるが、導入前に比べて「共有」「見える化」など当初の目標はほぼクリアされているようであった。直近で使用するサイドボックスの色分けを行うなど、応用面でも諸所に工夫がされていた。
- ・タブレットの使用を議員の個人活動まで認めており、議員が個人の市政報告会を行う時は、事務局で所有するプロジェクターも貸し出しをしているなど、市と議会の連携がうまく出来ている。又、議員同士のコミュニケーションを図るための活用など、我々が現状は個人の情報手段としておこなっている内容もタブレットの中で実施されていた。
- ・当市議会では、実務への導入後一年という事もあり、応用分野までは進んでいないが、近い将来は同じ位のレベルまで進めなければならないと思った。「習うより慣れよ」の言葉が印象に残った。

### (2) 新潟県見附市議会

テーマ タブレットの有効活用

- ・燕市以上にサイドボックスに多くの資料が掲示されており、事務局の管理が大変そうであった。導入後は色々なトラブルがあったようであるが、現状は議員個人がパソコン替わりに使用出来るレベルまで到達しているとの事であった。
- ・予算書・決算書については冊子とデータの双方を配布しているとの事。やはり機能性から考えれば冊子の配布は必要と考える。(燕市も同様)
- ・議員ごとに使用レベルの温度差があるのは当然だと思うが、手元に置いて使う事が先決である事を痛感した。その中で少しでもスキルアップ出来るようにしたい。

## 《委員 和田 哲》

### (1) 新潟県燕市

導入の経緯については、手書きの行事予定や、大量の紙資料、資料の保管方法などの、既存の課題解決が大きな背景として存在。これは、尾花沢市のタブレット活用の目的と異なる背景だ。導入による変革は、会議資料のデジタル化や連絡到達の把握等といった、職員の業務に与えた影響が大きく、事務局側のメリットや課題が新たに生まれている実情。尾花沢市議会は、議会スタートの原点を忘れず今後の変革に挑んでいきたい。

SideBooks の本棚整理については、会議ごとフォルダを作成し、直近のものだけ赤色・当局側の資料は青色・議員または各党派が自由に使えるものは黄色にするなど、一定のルールに沿って色分けする整理方法を参考にしたい。

チャットシステムは、LGWAN に対応した Logo チャットを利用しており、以前は無料のチャットツールを使用していたが、機能の制限やアカウントの安全性の確保など、必要な質を満たす管理に限界があるため、有料のシステムに変えている。今後、議会運営に必要な機能を検討する際は、無料・有料を含めた全体的な利益を考慮した判断をしていきたい。

導入アプリは、事務局が一括で管理しダウンロードしている。現在、尾花沢市議会ではブラウザによるアプリ起動のみを許しているが、今後、議会運営および議員活動の充実を図るためにも、アプリのダウンロードも検討すべきと考える。規定の見直しに取り組みたい。

端末は、燕市と尾花沢市は同様に iPad を使用している。貸与期間中に次の端末について検討する必要がある。次回の選定は、種類や特性を十分に理解し、その価値を市職員か議員のどちらに置くかで異なる判断が必要だ。そのためにも議員同士がもっと効果的に活用するスキルを底上げしていかなければならない。機械的な違いは僅かであり、搭載機能の充実よりも既存の機能をいかに使いこなせるかが重要だ。

### (2) 新潟県見附市

導入にあたっては、見附市は燕市を参考にしており一連の研修成果を得ることができた。タブレット端末の配備は全議員に完備。一方で、執行部への配備はしていない。そのため、議会事務局における業務は、議員への配付するデータ媒体と執行部へ配付する紙媒体の両方が存在することで増加している。尾花沢市議会においては、導入の検討を進める際に見通しを立てて、段階的にデータの割合を増やしてきた。現在では、殆どの会議において SideBooks による資料配付のみとしてきた。しかし、今後は DX「デジタルも活用した」視点で最適な利用割合を検討する必要があるのかもしれない。まずは、データと紙媒体のバランスがポイントと言えそうだ。

会議以外の活用について、見附市では、議員活動以外に活用できる範囲について基準を定めている。そのなかでも、SNS や動画の視聴（社会通念上理解の得られないもの以外）等を認めており、燕市と同様にアプリのダウンロードも認めている。これについての所感も燕市と同じである。

SideBooks 本棚の整理については、尾花沢市と類似しており、燕市の方法を参考にすることが望ましいと感じる。

予算書・決算書等のデータ化については、尾花沢市で導入をする際に暫定的にしている。今後、データのみで配付にシフトする際には、それぞれの資料の性質に応じて適切な機能を整える必要がある。見附市では、予算書や決算書を完全データ化しているが、款ごとの類分けにジャンプ機能を付け頭出し可能にしている。このように、検索性と作業性の向上に配慮し、ストレス緩和の措置も大事である。

ビジネスチャットは、WOW TALK を使用。メールアドレスは G-mail を全議員が各々取得しているが、連絡は WOW TALK に一元化している。チャットは、議員間のコミュニティが生まれることや、「既読」機能による連絡到達を確認できるなどの利点がある。この機能を議会運営に用いる場合は、「既読を確認とみなすかどうか」の共通認識が必要だ。見附市では、タブレットを配付する際に説明することで、共通認識の場としている。尾花沢市議会では丁寧かつ定期的な認識の場を設ける必要がありそうだ。また、スマホとの連動が大切と考える。クラウドや共通アカウントを上手に使い、機能をフル活用していきたい。

最後に、尾花沢市議会は、タブレット等をフル活用した議会運営または議会改革について、先を走る存在になれるのではないかと感じる。そのためにも、プロジェクトチームや作業部会等を立ち上げ、学びながら進化する体制づくりが必要と考える。



## 《委員 畑中 和恵》

### (1) 新潟県燕市

燕市のタブレット導入は平成30年と早く議会運営委員会では導入前に行政視察に3回も行っていた。議会側が積極的にペーパーレス会議実現に向けて活動し、その後に市側も検討を開始し導入に至った経緯を聞いた。最初に驚いたのは会議システムの『Side Books』のフォルダの見やすさだった。開催する会議フォルダを常に赤色と決めておくだけで尾花沢市でもこのようにしていただきたいと思う。また議員に届く案内状や研修会の通知などもカレンダーに添付し管理を簡単にしていた。タブレット導入をすることで印刷にかかるコスト削減ももちろんだが、紙ベースの時にかかっていた時間と手間が削減されることは議員にも市側にも有益であると思う。情報の共有や伝達の効率化、重い資料の持ち運びがなく便利なタブレットをさらに使いこなせるよう燕市の資料の最後の言葉にあった「習うより慣れよ」の精神で活用していきたい。

### (2) 新潟県見附市

見附市のタブレット導入は令和3年で導入前に燕市に視察に行っているとお聞きした。導入の目的としては経費削減、事務作業の負担軽減、文書をデータ化することでの検索性と保存性の向上だが議員がタブレットを持って市民に説明が行えるというメリットもあることを教えて頂いた。また議員の政治活動への利用も制限はしておらず SNS 等による市民との交流にも活用できている。ただ執行部側ではタブレットを導入していないため職員向けには紙で資料を準備しているようで二重の手間がかかっているということもお聞きした。

ビジネスチャットアプリ「WowTalk」(ワウテック社)を導入しており電子メールの代わりにチャットで連絡を行っている。このアプリは有料ではあるが、会議などの日程を決める際に使えるアンケート機能や既読・未読の表示機能で確実な情報伝達ができる。また準備していただいた資料にチャット画面の内容がありその中で意見交換分科会、情報発信分科会とあった。議会だより編集委員会とは別に情報発信する組織があることは開かれた議会を目指す尾花沢市にも取り入れていくべきではないだろうか。もちろん公開する内容は精査するのは大前提だが、もう少し議会全体で議員活動をオープンにしても良いのではないかと考える。

最後に燕市、見附市を視察させていただいたことでタブレットのさらなる有効活用が可能だとわかった。合わせて議会の在り方などもご説明いただいたことを参考にしてこれからの尾花沢市議会に活かしていきたい。